

認知症の人は何もできなくなった人？ 人権を学ぶ会 学習テーマは「認知症」

認知症の人は何もできなくなった人ですか？何も分からなくなった人ですか？

3月、北栄町人権教育推進協力員会議において、今年度の人権を学ぶ会の学習テーマを認知症とすることが決定されました。

認知症はかつて侮辱的な表現である痴呆症と呼ばれていましたが、現在では認知症という呼び方が定着しました。

海外でも、認知症の「問題行動・異常行動」という言葉は、「訴えかける行動」と認知症の人の気持ちを思いやる言葉への言い換えが進んでいます。

細やかな感情と心

人と人が関わる中で、最も基本的で重要なのは相手の気持ちを理解すること、つまり思いやりです。しかし、認知症の人の気持ちやその世界を理解することはなかなか難しく、周囲の人が振り回されることもあります。

一方で、認知症の人、もの忘れが辛い、怖いという気持ち。家族に怒られる情けなさ。周囲の人からどう見られるかなど、細やかな感情や心は残っています。

将来の私たちと今の私たち

私たちが認知症を理解し、思いやりを持つこと。また、本人の持つ能力を大事にしながら不足する部分をさりげなく支えることで、認知症の人が心穏やかに、社会とつながることも可能になります。

将来、私たちが認知症になった時、この地域に生まれてよかったと思える地域にしていくのは、今の私たちです。